

第2回 本庁跡地整備基本構想検討会議 会議録

【日時】平成26年10月1日（水） 午前10時から午前12時まで

【場所】市役所東別館 多目的ホール1

【出席者】◇参加者8名、市8名

(敬称略)

滋賀県立大学	松岡 拓公雄 (座長)
長浜市図書館協議会	森川 裕子
長浜地区総合施設建設促進協議会	漣 泰寿
淡海ネットワークセンター	澤 孝彦
長浜ビジネスサポート協議会	押谷 小助
公益社団法人長浜観光協会	岸本 一郎
長浜商工会議所	伊吹 正弘
(公募市民)	寺村 京子

総務課	小川課長 (事務局)
総務課	田中副参事 (事務局)
総務課	片山主査 (事務局)
市民協働推進課	中嶋課長
生涯学習・文化スポーツ課	岩坪課長
商工振興課	米田課長
観光振興課	改田課長
長浜図書館	川瀬館長

【欠席者】1名

立命館大学 岡井 有佳

【傍聴者】1名

【内容】

1. 開会

2. あいさつ

(事務局説明)

- ・資料の確認

3. 議事

(1) 前回会議のふりかえりとその後の動き

事務局：(事務局説明)

- ・【資料1】第1回本庁跡地整備基本構想検討会議での意見まとめ
- ・会議予定は4回から5回に変更する。(パブリックコメントを踏まえた基本構想の完成を確認する会議を追加)
- ・前回会議後、庁内での検討を進め、9/22に庁内検討委員会、9/24に関係部長協議を行った。

- ・長浜市社会福祉協議会について、正式決定はまだだが、正副会長会議のなかで本庁跡地整備に社協の土地を含め一体活用する形で参画していきたいという話を頂戴した。

座長： 本庁跡地敷地の角地が取れそうというのはまだ決定ではないのか。

事務局： 組織として10月半ば頃開催予定の理事会、評議員会で正式決定される。

座長： 角地を含めて検討できると、敷地がきれいな形となり面積の幅も広がるので、いろいろメリットがある。

(2) 他市の事例紹介

事務局： (事務局説明)

- ・岡崎市図書館交流プラザ

図書館、産業支援機能、市民活動支援機能等がうまく連携している施設で、長浜市がめざす先進地的な事例。

- ・市民交流プラザふくちやま

交流空間の創造をコンセプトに、図書館、公民館、産業支援機能、市民活動支援機能が複合した施設長浜市と規模に近い最新事例。

- ・せんだいメディアテーク

100万人都市仙台市の、建物のデザインが特徴的で集客につながっている公共施設の整備事例。

委員： 福知山市の施設の建設費とランニングコストはどのくらいか。

事務局： 建設費は建物だけで42～43万円/㎡、約27～28億円と聞いている。

委員： 長浜市の施設は1㎡どれくらいで検討しているのか。

事務局： まだそこまでは出ていない。グレードによって変わってくるかと思う。

委員： 上限があって、いかにお金を上手に使い、機能的で市民の利用効果が大きいものを建てるにはどうしたらよいかをまずコンセプトとして考えないといけないのではないか。

事務局： 長浜市の施設のみでなく、商工会議所や今後社協も入ってくるので今の時点で予算は提案できかねる。100億円もかけるのはあり得ないが、機能をいかに組み合わせるか皆さんの意見を聞くなかでコストを検討していきたい。

委員： 商工会議所や社協を1つの建物にすると費用の按分が決まってくるので、ここまでなら負担できるという心づもりがないと、どのようなものにするか決まった段階でできませんでは困る。ある程度、頭に入れておいたほうがいいのではないか。

事務局： 福知山市の施設の維持管理費は、開館後1年経っていないためデータを頂戴できていない。

座長： それぞれ特徴があり、自治体や参加機能に合わせた建物になっていて参考になると思う。

事務局： もう1点、社協の本所機能は湖北支所にあるので、市民活動支援や市民ボランティア活動支援を担っている地域福祉やボランティア関係のみ移転する形で要望されている。

(3) 施設の機能と特徴

事務局： (事務局説明)

- ・【資料2】施設の機能と特徴

- ・中央図書館、公民館、市民活動支援機能、産業支援機能、共用スペース、駐車場、

商工会議所の具体的機能について

- ・【資料 3】施設（機能）の連携イメージ
- ・【資料 2-1】施設の参考規模
- ・確定したものではないが、全体の想定規模は5,600 m²。既存スペースに新規スペースが増えることで、それぞれ既存施設より規模は大きくなるが、共用化することで効率的に建てられる。

座 長： 延床面積か。

事務局： はい。

座 長： 質問はあるか。
(質問なし)

(4) 意見交換

座 長： 本日持ってきていただいた資料の説明をお願いします。

事務局： まず、新しい複合施設での公民館機能のイメージについて。

委 員： 1週間前に第1～第9連合の役員が集まり、長浜地域エリアでこういったものが必要であるか会議を行った。公民館という名称は固定概念があって通常の公民館のイメージを持たれる。公民館代表ではなく地域エリアを代表して来ているという観点から、この地域にどういうものが必要か簡潔にまとめた。何がほしいかという生涯学習を支援していくものをつくってほしい。1つ目は交流機能、学びの機能、そういった生涯学習を支援していくような機能を求めていきたい。図書館は中央図書館というイメージでお話しされているが、生涯学習においてもできたら生涯学習の拠点になるような機能を持たせ、各地域の公民館をサポートしていけるような核施設になる機能を含めていきたい。

座 長： 公民館という呼び方だとイメージがよくない。昔は何でもやる場所だったが、メインは生涯学習支援の拠点。

委 員： 図書館もひっくるめて考えていってもよいのかなという話も出ていた。

座 長： たとえばどこかに飲み込まれてもよいのか。

委 員： 飲み込まれても公民館の機能さえあればいいと思う。

座 長： 続いてお願いします。

事務局： 市民活動支援関係の各階配置案について。

委 員： 状況や事業費等が把握できなかったもので、1階2階としているが、集約したほうが望ましいという意味合いで読んでほしい。1階には、公民館と市民活動支援機能を集約したほうがよいと思った。これから行政も財源が乏しくなっていくなかで、市民自らまちづくりに参加され、まちを元気にしていく動きがよいと思うので、公民館と市民活動支援機能を一緒にして、交流し勉強もしやすくしたほうがよいので1つの部分の形にした。2階は、落ち着いたフロアのもとで図書館と共用スペースをつくるのはどうだろうか考えた。資料2でも8つの間が案として載っているが、スペースA～Dのように1つのフロアのなかでも、くつろげる間や学習する間、憩いの間、管理の間を設けたらどうか。3階は、まちを活性化していく機能を持たす部分を集約し、産業支援機能と商工会議所を一緒のフロアにしたらどうか考えた。駐車場は、1か所に広くとったほうが有効かと思った。

座 長： 公民館のなかに生涯学習機能というのがあり、公民館という言葉はずっとつきま

とうが、昔から何でもやる場所なので全部被っている気がする。市として公民館という言葉はどういうふうに捉えているのか。機能的に他とは違うものがあるのか。

関係課： 生涯学習・文化スポーツ課です。公民館というのは社会教育法で定められている施設。それに基づき全国的に公民館という呼び方がされている。昔は社会教育と言ったが、今は生涯学習という言葉が使われている。地域の皆さんにサークル活動や自主学習、生きがいつくり、健康づくり等をしていただくため社会教育法に基づき設置されているもの。ただ、必置ではないので、現在は全国的に公民館の数が減ってきている。社会教育法に基づくとこの表現になるが、全国的には先ほど提案いただいたような生涯学習支援センターやコミュニティセンターという名称にしたり、社会教育法の網を外した施設として整理されているところがある。本課としても新しい建物に公民館の機能を備えてほしいが、特段、公民館という名称にはこだわっていない。

中央公民館にしたかどうかというご意見をいただいたが、現在、公民館は18館ある。長浜地区の公民館以外はそれぞれ地域の公民館という位置づけが強いが、長浜公民館は地域限定ではなく、比較的いろんなところから利用されている。公民館としての利用者数も高いので、そういった意味では中央公民館的な活用をされている公民館と考えるが、中央公民館にするということは各地域の公民館を統括する機能を集約する形になる。行革の観点からすると、機能を集約させるということは18ある公民館の機能をここへ引き上げてくるイメージになる。地域の各公民館は職員2~3名で公民館講座、小学生対象の土曜学び座等の企画から運営までをしているので、それぞれの地域で生涯学習を広めていこうとすると今ある公民館の機能を集約するのは難しいのではないかとということであえて中央公民館にする構想は持っていない。利用状況からすると他の公民館とは色合いが少し違うが、中央公民館にするコンセプトにはしていないということだけご了解いただきたい。

座長： 名称に縛りが無いということですね。

委員： 中央公民館と発したので驚かれたかもしれないが、意味合いとしては、18の地域公民館があり地域に根づいた支援活動をしていて、ミクロの活動としてすばらしい密着型だと思う。一方、全市的な広域の視点、大局観でいろんな活動をしていかなければいけないこともあるので、18の地域公民館に発信したり主導するという意味合いで中核になるような機能がないといけないと申し上げた。

座長： 機能的に他のものの責任を持つものではないが、リードしていくような、発信するところですね。今回の図書館、公民館、産業支援機能、商工会議所等は単体でもできるかもしれないし、自立していないといけない部分もある。どこまで共用部分を出せるかだが、公民館は職員が2~3人しかいないということなので、オフィスが少しあればあとは共通のもので全部できるのではないかと考えられる。ものによってはあるボリュームも獲得しなければいけないので、整理して重なるところを重ねていきコンパクト化していく。現在5,600㎡くらいの見通しで、1㎡40万円とすると22~24億円の建物になると想定できるが、中身をどうするかが会議の趣旨なので、それを整理していかなくてはならない。

続いて、お願いします。

委員： ざっくりした配置図だが、桜の木がL字型に植えられているので、たとえば別々に建物を建てるのではなく1つにしたほうが土地利用から言ってもいいのではない

かと思った。建物を1つにしたほうがランニングコストや経済的に効率的に運用できるのではないか。防災のこともあるので、なるべく広く。長浜市を見ると緑が少ないので、環境に配慮するなら植栽をしているいろんな花が咲いているところが図書館というように、そういうものも含めて利用してもらえるものがないのではないか。商工会議所と長浜公民館の敷地は小さな公園と駐車場に。駐車場も全然ないのは困ると思ったが、まちの真ん中にあるのに駐車場を大きく取って、これから過疎化になる時代にそんなに駐車場が必要なのかと思う。駐車場を造ってしまったら市内を歩いてもらえない。もう少し違うところに駐車場があつてなるべくまちのなかを歩いて、利用してもらおうほうがいいと思った。駐車場としてはあまり必要ないと言ったのはそのこと。来た人がベンチで休んでいろんな人と交流ができる場にしたいほうがいいのではないか。外でミニコンサートをするようなものができたり、玄関は広くして、たとえば紫陽花や金木犀、つつじなど、いつ行っても花が咲いているような賑わいのある、見た感じ華やかさがあるようなところがよいと思った。

座長： 全体を考えていただいた。計画としてはランドスケープはとても大事なことで、その視点は絶対必要になってくる。こういう切り口と中身で連動させないといけない。委員の提案は建物を1つにまとめたほうが外部空間をたくさん取れるので利用しやすくなるのではないかということ。1つにしたほうがいいのかというのは大きなポイントだと思う。2つ、3つではだめなのかは考えておかないといけない。続いて、お願いします。

委員： 商工会議所内部で、今年8月に商工会議所建設委員会を立ち上げた。商工会議所には10部会あり、部会長は常議員の方になっていただいているが、常議員から7名と青年部部長、女性会会長の9名で委員会を構成している。すでに2回開催し、その準備段階で事務的なものを作成するために、専務理事を筆頭に7名で建設準備室を立ち上げた。まず、準備室でシナリオを考え、図を作成した。全体的なイメージとして6つの機能が配置されることになる。具体的な段階には踏み込んでいないが、中心市街地のまちづくりを踏まえて基本構想や設計を進めていくなかで今回の跡地利用として複合施設の整備にあたり機能配置に伴う建物、空間利用の視点から押さえていくことが大事だと思っている。第1に、1施設1機能ではなく複合機能視野による規模の適正、施設の使いやすさ、発展性、将来に向けて対応できる施設であるべきと考えている。1番目に空間機能のシェアと規模の適正化、2番目に多様な利用者層、それぞれにとっての使いやすさと発展性、3番目に伸縮や転用に対する柔軟性を持たせていくということを図で説明している。4番目に今回の建物が中心市街地の核施設であるという観点から、まちづくりを継承されてきた市民共有の場、周辺環境や景観との一体感、関連する敷地空間の利用のあり方を、デザイン、景観形成、ルールを共有化していくことが大変重要ではないかと思っている。その下の図は建物の平面図ではなく、各施設の機能に関連性を持たすことによって色分けし配置したものです。基本的な考え方として、メインフロアから6つの機能の組み合わせによる接続方式が最もいいのではないか。各セクションにおいて市民の方が来られた時に風通しのよい、そこからどこでも行けるという考え方の建物がいいのではないか。そのためには、1階にそこそこ大きなフロアを設けてどの施設へも自由に立ち入りすることも必要ではないかと思っている。配置パターンは、先ほど委員がおっしゃっていたように駅前通り、東西の通りの桜をある程度配置しなが

ら今の庁舎のように各施設をセッティングしたらどうかという1つの考え方と、八幡宮の森とオープンスペースをうまく繋ぐ、この2つの方法があるのではないかと考えている。配置パターンはあくまでも市で総合的な判断をして考えていただかないとならないと思う。商工会議所としては、メインフロアとサブフロアがあり、全体的に風通しのよい、どの場所からも図書館や公民館、商工会議所に行けるような建物があれば一番いいのではないかと考える。

座長： 全体的にきれいにまとめていただいた。かなり密度の高い、だいたい一通り網羅されているものを話していただいた。考え方としては、これからは建築が複合化し、コンプレックススタイルの時代になってくることをここで捉えていこうということや、若者からお年寄りまで安全に使いやすい開放的なものをとということ。伸縮性や転用という柔軟性は計画的に難しく、がっちり造ると中身の入れ替えができない。その柔軟性を建築的に接続していく方向にするのか、大きな倉庫のようななかで入れ替えていくのかという手法も考えられるとおっしゃっていた。デザインコードとして、たとえば自然を活かすとか色とかが見えるように持っていき、リードしていく建物にしたいということ。機能と規模に関しては、それぞれをどう連結させるかという話で、1階に大きなフロアを持つてくると見通しがよくどこに何があるかわかりやすい。委員がおっしゃったようにコンパクトにすると1つの大きな入口に入れば全部見える。そういうこともこれからの建築に必要。配置パターンは都市計画的な周辺との連携、緑を繋げていくイメージをここから発信していくということ。桜並木から取っていくのか、敷地のなかを取るのかという提案になっている。これは今後の計画のなかで加味していくことになる。

次、お願いします。

委員： 今の市役所のような1つの建物のイメージで、どんな建物ができたらいいか考えてみた。魅力のある、明るい建物、開放的で安心安全、くつろげる、楽しい、わくわくする、また来たい、みんなに愛される建物であってほしい。長浜らしい（歴史・文化等）、建物ができればいいと考えた。外のイメージは、くつろげる広場があって、おしゃべりや読書、散歩、飲食ができたり、緑は芝生や木陰があったり、手が洗える水辺があったり、いつ来てもどこかに花があるような季節によって表情が変わる季節の花があればいい。外のイメージとして子どもが遊べる遊具があってもおもしろいかと考えた。駐車場は、雨に濡れない工夫があつたらありがたいと感じていて、特に子ども連れは荷物が多く、ベビーカー、マザーズバッグを持って赤ちゃんを抱いて傘を指すのはしんどいので、できれば建物のなかに駐車場があつたらいいと思った。

6つの機能のなかで、図書館が開いていけば市民誰でもいつでも大丈夫というイメージがあるので、図書館を1階2階に配置した。1階は賑わいのイメージで、親子連れでも安心してゆったりくつろげる、赤ちゃんや子どもの空間を1階にとイメージにした。図書館にも静かな空間は必要なので、2階は専門的なイメージで静かな空間として子どもが走りまわるところとは別にさせていただきたい。静かな空間では新聞を読んだり専門的なことを調べたり、研究個室とかをイメージした。図書館は市民活動支援コーナーや公民館と行き来できるように置いてみた。3階は共有スペースでホールや会議室、講演会があつた場合は託児室があるとありがたい。そのスペースはなんでも使える部屋でもいいと思う。北部から見たら中央ばかりよい

施設ができるというイメージがあるので、遠くからも来てもらいたい。そのためには車で来られるので駐車場は欲しいと思う。せつかくの中央図書館なので、中央図書館としての機能をしっかり発揮できるような図書館ができてほしい。広くゆったりとくつろげる、たくさんの資料があって探してもらおうのでなく自分で探してすぐ手に取れるような、市民のための図書館ができたらいと思う。男性トイレにもお父さんと来た女の子が行けるトイレがあればいいと思う。いろんな人に来ていただきたいので、いろんな人が使いやすい工夫をしているとわかる施設があったらいいと思った。1階にはカフェとショップを入れた。観光のメインは、何かを見る、体験する、食べる、買うだと思った。長浜らしい、たとえば長浜特産のブドウを使ったスイーツのカフェがあったら楽しい。新しく事業を興こそうと思う人がショップで商品売ってみるなど、ここに来れば長浜の最新情報が得られるという店があったらおもしろいかと思う。

座長： 託児室を3階に持っていったのは何か意味があるのか。

委員： 会議時に使えたり、普段から開けておき誰でも入ってお子さんと遊んでもらうというのでもいい。お母さんも勉強しようと思うと子どもを預けてもらうほうが絶対いいと思う。もちろん図書館にも子どもと一緒に過ごせるスペースはある。

座長： 次、お願いします。

委員： 東浅井3商工会が来年4月に合併することが急きょ決まり、昨日、長浜全ての商工会正副会長と役員を招集し、施設について話をしてきた。ビジネスサポート協議会の代表で来ているので、本来ならビジネスサポート協議会で話をしてからこの会議へ来るが、商工会議所の副会頭もおられるので、商工会の立場から産業支援機能について話をしたい。旧東浅井と伊香の事業者への支援をするのが商工会、旧中心市街地は商工会議所という別の経済団体だが、長浜の中心地に（仮称）ながはま産業創造センターができ商工会員が有効的に利用できるのかと役員とも不安になっている。産業支援機能や情報発信機能、販路開拓支援機能は、実は商工会でもやっていること。絵に描いた餅になってしまい、我々が利用できないのではないかと不安がある。昨日、商工会が有効的に利用するにはどうしたらいいか話をしてきた。滋賀県の経済は南高北低と言われていて、その1つに大津に県の産業支援プラザがある。商工会が専門的な支援を受けるため、職員が会員を車に乗せ大津まで行って支援していることがある。草津にはヤングジョブセンター滋賀がある。これは新卒の応援ハローワーク。今回の施設にハローワークは入らないので、特に北部に若者が定着しにくい。若者の人材を雇用するのに草津まで行っておられる商工会員もいる。そういった滋賀県の経済支援施設が南にしかないので、産業支援プラザの北部支部又はヤングジョブセンターの北部支部という機能を長浜市だけでなく彦根以北、高島市も利用してもらえようような総合的な支援機能のある産業創造センターにしてほしい。特に、アベノミクスの成長戦略で2015年度にも地方創生の予算が約4兆円出ている。これには間に合わないものの、安倍政権では地方の小さな商工業者への支援施策が出ていて、商工会議所や商工会が受け皿になる仕事が多いがなかなか難しいので、センターで受け皿になれる滋賀県北部の経済活性化拠点になるようなセンターを造ってほしい。次回には、ビジネスサポート協議会としてこういった施設がほしいという要望書を持ってきたいと思うのでご理解願いたい。商工会議所や商工会以外の経済を支援する施設も全て大津、草津にある。大津に本所、長浜に

支所みたいなのがあれば。商工会は法律上、商工会職員が長浜市の中心地に出向いて支援することができない。ここに北部の支援センターを造るのであれば、滋賀県商工会連合会から直接職員を配置して支援することの協力依頼もできるので、長浜市だけでなく滋賀県北部の支援機能を持つ施設にしてほしい。

座長： 次、お願いします。

委員： 簡単に言えば、隣に八幡宮があり、大きな鳥居でもあって参道の1つになればと
思っている。黒壁のほうのバス乗降所でお客様が降り、まちを回遊される形になっ
ているが、反対にこちら側にもバス乗降所があり八幡宮を経由してまちなかへ行っ
てお旅所で乗せるというコースもある。お客様がバス待ちをしている間、その場所
が有意義に使えるよう、観光案内や長浜の特産品とかのカフェなどがあって地場産
が食べられたり、お土産が買えるものが一部あってもいいと考える。先ほども言っ
ておられたが、緑が少ないので、できれば緑の多い建て方をお願いしたい。私は自
然の中で育った感覚があるが、長浜にいとそういう感覚がないので、商工会議所
と公民館の跡地は小学校と中学校の間なので、できれば自然に還して、小学校と中
学校で共有できるような、池に魚を飼育したり木を植えたり掃除をしたりと小中学
校が協力してできるような自然をつくっていける場所があってもいいかと思う。動
物や自然を大切する気持ちが小学校の頃から覚えられ、小中学校が仲良くなれる場
所になればいいと思う。また、その森と八幡宮の森を繋ぐ参道があるなかに施設が
あるような、どちらが主体になるかは別だが、参道みたいなものが両方の森を繋ぐ
形であればいいかと思う。それから、休日や開館時間をできればフロアごとにある
程度まとめて、日曜祝日関係なくやっているところはできるだけ固めてほしい。エ
ネルギーの効率的にもそのほうがいいのではないかと思う。せっかく大きな施設が
できて、電気がついているところがちぐはぐだともったいない気がする。こんな立
派な施設なのに寂しいという気持ちを与えてしまう。図書館は土日は開館していま
すよね。

関係課： しています。

委員： そういうところと観光案内しているところを一緒にする形で、土日を休むところ
は固めてエリア分けしていただくとありがたい。

座長： 観光の視点から、黒壁との回遊性や八幡宮との連動、人の流れがちょうど入れ替
わる反対側の拠点という位置づけにしたほうがいいということ。これは建築の内容
や場所のつくり方に影響してくる。環境というキーワードは随分前から言われてい
るものの実際にやっているのはそうそうないが、緑が増えれば生態系も復活したり、
隣の八幡宮とも繋がっていくので、1つのネットワークの拠点になる位置づけはと
てもよい。皆さんの意見は、都市的な広がりから捉えている見方と施設の細かい使
い勝手を含めて幅が広いので、グルーピングしてまとめなければいけない。

ここで自由に質問や意見があればお願いします。

委員： 公民館のことをおっしゃっていたが、それぞれに特徴を持って地域でがんばって
いただければいいと思うが、交流する場も必要だと思う。長浜市民としての一体感
を考えて、地域も大事だけど長浜市全体でいろんなサポートができるような、中央
図書館のレファレンス機能や商工会議所など一体になってやっていくほうがいいと
思う。ビジネスのこともおっしゃっていたが、大津にある施設などはパソコンで簡
単に資料も取れ、話もできるので、そこまで行かなくてもできるはずなので、近く

にあるバイオ大学や県立大学とも連携をとり、そういう機能を持たせたほうがいいのではないかと思う。

座長： 孤立した機能ではなく全体を具体的にやるのはまとめていかないと時間がかかる。どこを切り離すか、絶対外せないもの、機能として成り立たなくなる部分もある。図書館で言えば、書庫とかのスペースはある。図書館もIT化のなかで増えているのは雑誌とかだけで縮小してきている。これからメディアが変わっていくとバーチャルのネットワークも必要になってくるが、この建物は電子的なことで解決するのではなく人が集まるということに意味があるのではないかと思う。バーチャルでやっていた人もお互い顔を合わせてお茶を飲んだりする場所は絶対必要になってくる。自分の家でも仕事ができる時代なので、人が集まる場所としていい場所にしていき、いろんな機能があってサポートしていく。6つの機能のうち6つ目の共有スペースは機能じゃないかもしれない。全体の大きなテーマ、そのなかに5つの機能が入っていると言えるかもしれない。機能ではなくて実は全体を繋いでいるもの、そういう発想にしていかないといけない。そこにどういふものをそれぞれが提供しているか。それが見通しのきくスペースとしてあるというイメージになっていく。あとは建物の規模だが、高さは何階建くらいか。

事務局： 考えている補助金の関係では、一部でもよいので3階建はないと補助対象にならない。

委員： いろんな機能をつけると補助金の率が上がるのか。

事務局： それはまた別です。現在の建物より高くないイメージで思っている。

座長： 絵がないから何とも言えないが、今ぐらいの面積、場所、空いた駐車場が公園になるというようなイメージを持って考えればいいですね。ボリューム的なものでいいので簡単なたたき台みたいなものがあると、1つの箱の中に入れるのか、電車みたいにくっつけてそれを共通のものが繋ぐのかとかいろいろある。それはまだこれからだと思う。

事務局： 先ほど出ていた図書館の〇〇の間でもよく見ると共用スペースも入っているし、委員から出ていたスペースもあるが、機能としての人の部分、建物の機能以上なことも出ているので、人が大事だと考えておられる方が多いと改めて感じた。

座長： 他に何かあるか。

委員： 何らかの形で具体性、たとえば模型を作ったりいろんなことができるかと思う。そういったものが出てこないとなら11月には基本構想をつくるというスケジュールなので、それぞれの機能のなかで面積が出てくると思うので、それを集約しアバウトでもよいのでこういう形でとしないと議論ばかりで前へ進んでいかない。日程的にも問題が出てくるかと思うので、考えていただければと思う。

座長： おっしゃるとおりで、この期間で模型まで作っては無理だが、大凡のものを示すことはできると思うし今やCGとかも簡単な操作でできるので、そこまでこの会議でするかどうかという指針を示していただきたい。基本構想に入った時にも関わっていけるようにしておけばそこで意見を吸い上げてもらえるというしくみを、この期間でどこまでできるかというところ。

事務局： 基本構想は言葉で書き表すというイメージでそれを具現化していくのが基本設計、実際の実設計となる。基本設計で、何階建かとかどう配置するのかというイメージに関してはご意見を賜り、社会福祉協議会の参画の感触も出てきて、だいた

い出揃った感じになってきたので、一度検討させていただこうと思う。

座長： 関係者や市民代表もちろんいるが、多少時間があれば、ワークショップのようなことをやって意見を吸い上げていかないとみんなに愛される施設にならない。後で批判される。市民に何かしらの形で参加してもらったほうがいいと思う。時間がないので厳しいが、短い時間で何ができるか検討していただきたい。少なくとも関係者の意見は吸い上げられるが、もっと他の意見があるかもしれないので、それを落としていくのが怖いと思う。

委員： 1市8町が合併し滋賀県で一番大きな面積のまちができた。中心市街地は一番南にあり、こういう施設は南に建つ。余呉や西浅井の人が本当に有効に利用できるのか、自然などの話があるが、自然がいっぱいあるところに住んでいるのにわざわざここに来ることはしない。図書館もいろんなところにある。一番遠いところで20～30kmあるのではないか。ここを有効的に利用するにはどういうふうにするのかという限界もあると思う。過疎化になっていくと地方の小規模事業者は廃業せざるを得ないのが現状。毎年5～10%くらいの会員が廃業している。地域経済の活性化がなければ地域の活性化もないという思いなので、先ほど言ったように長浜市だけでも南の中心市街地だけが駅前も再開発され都市化になっていって、奥はだんだん人が少なくなる。滋賀県を見ても南のほうがいいということなので、ぜひ湖北全体を考えた経済を支援する機能を産業創造センターに持ってほしい。大きな税金も使うのでしょうから、絵に描いた餅では困る。人材などは協力させていただく。経済の立場から言えば、ここに商工会議所や商工会があつて、商工振興課もあれば連携を密にして地域経済の活性化の話もできるのでとっていたが、そういうことも含めてそういった機能がある施設を造っていただきたい。

関係課： 以前から十分お聞きしている話です。

事務局： 建物という括りでやっているが、県への働きかけとなると当然、産業経済部や長浜市挙げて持ってこないといけない。特に、産業創造センターは商工振興課中心に産業経済部を挙げてやってもらっているのでもっと連携しながら考えていこうと思っている。長浜市あるいは彦根や高島も含めた形の産業界の要望ということになってくるかもしれないので、そうなった時はよろしくお願いします。

委員： 図書館機能でレファレンスをしっかりしてもらえば日本全国の情報を集められるので、中央図書館をもっと利用することを頭に置いてほしい。そこからいろんなものが情報発信され、それとミックスしていろんなことをやっていくのだから中央図書館を利用する形で、スキルのある職員に入ってもらわないとなかなかできない。

座長： 図書館や産業支援機能が入るということは決まっているので、魅力あるものにして機能をちゃんと持たせないと人が集まらない。それをしっかり踏まえて、この会議の目的は何かというと、それぞれの立場があるが、どう連携するとこの場所がよりよくなっていくかということをもとめて基本構想として次へ繋いでいくということ。

委員： 今、委員がおっしゃったように、確かに中心地に造ってしまうと全てが中心地になってしまうが、今回の施設に中心地から外へ情報を発信していける、技術を提供できる機能、そういうしくみがあるべきだと思う。経済だけでなく市民活動でもそうだと思う。公民館という名称は別にして地域のリーダーや地域の課題を解決していける人を今回の核施設で人材育成していき、それを地域へ発信していく形になる

ような機能を持たすべきでないかと思う。人としくみが大事。

座 長： 加えて、もっと若い人を育てていくべきだと思う。我々がつくって与えるのではなく、これからの人たちが自分でつくっていく雰囲気を入れていくとよいかと思う。

委 員： 青年会議所の方たちと話をする機会があったが、長浜でこんなに若い人で跡を継いでいる人がいると全然知らなかった。そういう人たちの意見も集めていただきたい。

4. その他

5. 閉会

事務局： (事務局説明)

- ・今後の会議日程について

次回第3回…10/24 (金) 午後2時

第4回…11/7 (金) 午後3時30分から